

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	NPO法人福島こども保養プロジェクト@練馬 記録グループ
支援対象者・エリア	福島県
企画開催地	東京都練馬区
企画名称	福島の子どもの保養を伝えるホームページやニュースレター作成発送事業
実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

(目的) 2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故後、福島県をはじめ放射線の高い地域に暮らしている子どもたちに、少しでも線量が低い地域でたっぷり外遊びをしてもらい、心身のリフレッシュをはかってもらいたいと考えている練馬区民が集まり、任意団体として2011年6月に設立。その後、より継続的な活動をするため、2013年9月にNPO法人化。

(今年度の取組み)

昨年の4月より、保養キャンプを実施予定だった埼玉県飯能市の大平ハウスの環境整備などで活動をスタートしていた。その後、新型コロナウイルスの感染拡大のため、保養キャンプは中止となった。8月には念願だった団体のホームページが開設され、団体の成り立ちや活動状況を皆様に知らせるツールとなった。また、「記録グループ」として報告集にかわるニュースレターの作成を検討した。編集会議(オンライン含む)をもち、9月ニュースレターNO2、今年の3月ニュースレターNO3を1500部ずつ発行した。NO3のニュースレターについては、パルシステムの未来花基金の助成を受け発行することができた。いずれもキャンプ参加者、キャンプなどの協力者、支援者、会員、賛助会員などに400通ほど配布、発送をした。

コロナ禍のなか、11月にはオンライン同窓会を行い福島から大人1名、子ども3名の参加があり交流をする機会となった。保養練馬からは10名ほどが参加をした。

2022年2月には、震災・原発避難者はいまPart7「あの日の福島 その後の福島 福島の子どもたち」を練馬区のココネリ研修室で開催した。避難者の鹿目久美さん、フリーライターの吉田千亜さんを講師でお招きし、会場参加者34名、オンライン参加21名、合計55名の参加者があり、震災当時を振り返るとともに今後に向けての取り組みの課題を確認した。なお、ニュースレターNO3には上記11月のオンライン同窓会と2月の講演会の記録を掲載した。

今年の3月には、練馬区江古田にあるギャラリー古藤での「3・11福島を忘れない第11回江古田映画祭」に活動の様子を紹介したパネル展示を行った。

(取組みと感想)

残念ながら、昨年につき夏の保養キャンプは実施できなかったが、オンラインを通じての交流や講演会&コンサートを開催することができた。特に2月の講演会&コンサートでは、東京電力福島第一原子力発電所の事故から11年がたっているが、まだまだ様々な問題を抱え苦しんでおられる方がいることを強く感じた。コロナ禍ではあるが、ニュースレターを通して私たちが福島のことを忘れておらず、つながっていることを認識できた。今後も避難者の問題も含め、地域での「保養」の意義をとらえ、若い世代に伝えていくためにも活動を展開していきたい。

活動の様子（写真など）



← 震災・原発避難者はいま Part 7
「あの日の福島 その後の福島 福島のごどもたち」
2022年2月開催 ↓



← 年2回発行ニュースレター
(パル未来花基金助成金使)

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。